

【視察調査報告書】

会 派 名	市議会公明党
参 加 議 員	【議員】 9 名 村松徹、五間浩、美濃部弥生、渡口禎、富永純子、久保井博美、日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和 6 年（2024 年）5 月 7 日（火）
詳 細	
視察日及び視察先	5 月 7 日（火） 神奈川県 相模原市
視 察 内 容	リニア中央新幹線橋本駅の整備に伴うまちづくりについて
概 要	● 相模原市は、神奈川県北部に位置する人口約 72 万人、面積 328.91 km²の政令指定都市で、緑区、中央区、南区の 3 区で構成される。 ● 同市は、東京都心から約 40 km 圏、横浜市から約 25 km 圏に位置し、鉄道は、JR 横浜線・相模線、京王線、小田急線が乗り入れ、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）インターは 2 箇所が設置されている。 ● 今後は、市内の橋本駅付近にリニア中央新幹線の新駅が開設予定であり、これに伴うまちづくりについて視察した。 ● リニア中央新幹線は、新幹線で初となる超電導リニア方式の採用で、最高速度 505 km の高速走行が可能。2027 年に品川～名古屋間を約 40 分。2037 年に品川～大阪間を約 67 分で結ぶ予定とされる。 ● リニア中央新幹線の建設を巡り、静岡県はトンネル工事によって県内を流れる大井川の水量が減ること等の悪影響が懸念されることから着工を認めず、JR 東海は、「2027 年以降」の開業とする変更を決定し、2027 年の開業を断念するに至っている。 ● 相模原市は、上記の変更決定を踏まえつつ、リニア中央新幹線の新駅の開設を念頭に置いたまちづくり事業を引き続き推進するとしている。 ● リニアの駅は地下駅（旧県立相原高校跡地）で、名称は暫定的に「神奈川県駅（仮称）」となっている。駅ホームは地下 3 階部分に 2 面 4 線として造られ、駅部の延長は約 900 m、幅は最大で約 50 m を予定している。 ● 橋本駅周辺を取り巻く環境としては、「さがみロボット産業特区」と「多摩イノベーション交流ゾーン」に位置付けられた地域となっている。

	●橋本駅周辺のまちづくりについては、リニア駅の用地（旧県立相原高校跡地）を重点地区として、橋本駅北口地区（マンション、複合施設、文化ホール、図書館、市の出張所等）、橋本都市拠点地区（商業施設、マンション、警察署、緑区役所）、橋本大山町地区（ショッピングモール、マンション）で構成され、併せて、骨格となる既存道路と橋本駅南口地区を結ぶ道路の整備・改良を伴う事業予定となっている。 ●橋本駅周辺のまちづくりについては、「まちの将来像」と「まちづくりの誘導方針」を示す「相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン」（以下、「ガイドライン」）が策定されている。 ●「ガイドライン」では、まちづくりのコンセプトとして「リニアでつなげる一歩先の未来を叶えるまち橋本」のもと、「暮らしを変える先端技術の拠点となる」、「新たな価値を創造する土壌がある」、「環境共生型ライフを実現できる」をテーマとして設定している。 ●「ガイドライン」では、この3つのテーマを踏まえた土地利用計画として、「駅まち一体牽引ゾーン」（駅と街区が融合した「駅まち一体のまちづくり」を牽引するゾーン等）、「広域交流ゾーン」（観光、物産、産業等に関する交流や情報発信の拠点となるゾーン等）、「複合都市機能ゾーン」（働きやすさ、住みやすさ、過ごしやすさを兼ね備えた、誰もが心地よく過ごせるゾーン等）、「ものづくり産業交流ゾーン」（産業集積を牽引するゾーン等）を設定している。 ●「ガイドライン」では、「6つのまちづくり誘導方針」として、「土地利用」（広域から人々をあつめ、新たな価値を創造する）、「景観」（まちの玄関口にふさわしい景観を形成する）、「交通・ネットワーク」（誰もがアクセスしやすいまちをつくる）、「環境」（環境にやさしいまちづくりを推進する）、「公共空間」（賑わいが広がる、開かれたパブリックスペースをつくる）、「防災」（災害に強いまちづくりを推進する）を策定している。 ●「ガイドライン」の推進による今後の進め方については、「地区のまちづくりルール」の検討、「計画の深度化や需要動向に応じたガイドライン見直しの検討及び土地利用の検討」、「継続的なマネジメント」、「特色ある都市機能の誘導に資する規制緩和等や支援措置についての検討」などを行っている。
所 感 等 (意見・課題・ 本市への反映など)	●相模原市役所での視察に先立って、橋本駅前のm e - w eビル（橋本図書館が入居しているビルの8階ロビー）からリニア駅の工事風景を見学させて頂いた。リニア駅の開設で、橋本駅周辺がまさに生まれ変わる様なスケ

ールに感銘を覚えた（別掲・写真）。

- 相模原市と八王子市は隣接市であり、地理的・歴史的にも繋がりが強く、生活圏・経済圏を深く共有している。今後のリニア中央新幹線の新駅設置も踏まえて、更なる連携強化と相互発展に向けた取り組みが重要となると考える。
- 広域多摩の産業交流拠点である八王子市との連携では、橋本駅周辺のまちづくりにおける「ガイドライン」で、「ものづくり産業交流ゾーン」（産業集積を牽引するゾーン等）の中で位置付けられていると伺った。全国有数の学園都市など八王子の強みを活かした今後の連携強化に向けて研鑽を深めていきたい。

視察の様子



